

会員便り

正月の風習、伝統と愛国心

中 林 幸 夫

(会員 香川県綾歌郡国分寺町)

私は佐伯在住中は、養賢寺等で除夜の鐘をつき、鶴見沖から登る初日の出を拝み、家族と健康を祈って雑煮を食べ、五所明神へ参拝後、市内の正月風景を見てカメラに収めるのが習慣であった。

山際通の武家屋敷の雰囲気は写真によく、普段閉ざされている長屋門も開けられて、立派な門松が新春を迎える心の風景が好きで、カメラに収めることが多かった。

市内を見てまわっても、個人の家で



国旗を掲揚している家は数軒しかなかった。

国旗は外国でも事あるごとに掲揚しており、日本でも終戦までは祝祭日は「旗日」と呼び、どこの家庭でも掲揚して、愛国心と祝日の喜びを表していた。

終戦後、GHQからしばらくの間、掲揚の禁止期間があったが、解除されても、国破れて山河あり、で国・ふるさとの愛国心まで捨ててしまったのか、あまり国旗を掲揚しなくなった。情けない気もする。

私は海上保安官であったから、国旗には強い関心をもっている。外国船でも自国の国旗を掲揚しているし、船舶は国旗を掲揚していなければ、外国の港へ出入国できないのである。

オリンピックで表彰式に国歌とともに国旗が掲揚されるとき、選手は国のために戦ったという誇りで、目頭を熱くしている。国旗には愛国心の誇りがある。

毎朝、NHKではテレビの放送前に国旗がはためいている画面を映す。

日の丸と国旗について歴史を調べてみると、次のようなものがある。

一六三四 寛永一一年 奉納絵馬の朱印船に日の丸あり、
將軍御座船に朱の丸
一八五三 嘉永 六年 ペリー浦賀来港、薩摩藩主、島津斎彬が白帆に朱の丸の採用を
建白
一八五四 安政 一年 幕府は『日本総船印は白地に日の丸幟』と布告
一八五九 安政 六年 幕府は『大艦には御国総標とし

て白地に日の丸旗』を艦綱に掲揚を指示

一八六〇 万延 一年 咸臨丸『日の丸』を掲げ米国へ向け出港

一八六二 文久 二年 小笠原の竹島に日章旗を掲ぐ

一八七〇 明治 三年 大政官『商船郵船規則』で国旗の寸法布告

一八七二 明治 五年 大政官、開所在県庁に国旗掲揚を指示

一八七七 明治一〇年 一般の祝祭日国旗掲揚を通達、外国へ渡航の日本商船に国旗掲揚を指示

一八九九 明治三二年 『船舶法』に日本船舶の国旗掲揚を明確に規定

一九〇八 明治四二年 『刑法』に外国の国旗汚損破壊罪を規定

一九四五 昭和二〇年 GHQ日の丸公式掲揚を禁止

一九四九 昭和二四年 マッカーサ、国旗掲揚制限解除

一九五〇 昭和二五年 文部大臣、天野貞裕国旗掲揚、国歌斉唱を望ましいと教育委員

会に通達

一九五八 昭和三十三年 文部省『学習指導要領』に国旗

掲揚、国歌斉唱を望ましいと告

示

一九六二 昭和三十七年 政府、全国官公庁に国旗掲揚を

通達

一九七七 昭和五十二年 文部省、学習指導要領を改定、

君が代を国歌と明記

一九八七 昭和六十二年 教育過程審議会、入学、卒業式

の国旗の扱い明確化

一九八九 平成 一年 文部省、学習指導要領を改定

し、国旗掲揚、国歌斉唱の指導

強化

一九九〇 平成 二年 全国の小中高、入学式で国旗掲

揚、国歌斉唱

一九九三 平成 五年 卒業式の国旗掲揚、国歌斉唱校、

九五パーセント以上になる。

君が代斉唱では反対意見も多く、苦勞した校長先生も

多い。

今では各家庭で国旗を掲揚しようとしても、国旗と旗竿のない家も多い。私の家にも国旗はない。

私は終戦のとき小学生で、進駐軍を見つけては「ギブ

ミ チョコレート」と群がり、生まれて初めて甘い

チョコレートなるものを口にした。

私の住んでいたところは海軍航空隊があり、終戦間も

なく連合軍の米、英、オーストラリア、インド、中国軍

がものものしい重装備で、何十台というジープに分乗し

てやってきた。インド兵は水牛の角で作った蛮刀を腰に

していた。若い女はみんな田舎に疎開した。そんな雰囲気

であったが、彼らは日本人の警戒心を解くためか、子

どもたちにはチョコレートとチューインガムをくれた。

ある日、ジープを下りてきた兵隊がチョコを見せて日

の丸と言い、日の丸とチョコを交換しようと言った。子

どもたちは家から日の丸を持ち出し、チョコと交換し

た。

その後も、日の丸を探してはジープに振ってチョコと

交換した。ある日、米兵がこれはいらないと旗を突き返

した。

手振りとはわからない言葉で話していると、この旗は絹

でなく人絹だからいらぬという意味がわかった。彼らは戦勝の土産にシルクの国の絹の国旗を求めていたのであって、人絹の旗がいらぬことがわかった。

その後、チョコと交換したため、我が家には国旗がない。日の丸を立てて、祝日を祝いたいものである。

正月にかけせないものにお餅がある。

子どもの頃、『もういくつ寝るとお正月』と歌ったように、子どもも大人も正月は楽しみにしていた。

中でも餅つきは各家庭の迎春行事の一つであった。だから家では豆、海草、きびなどを入れて工夫をこらした。つきたての餅は餅肌と言言葉があるように、やわらかくておいしかった。私はつきあがったばかりの餅を、大根おろしに入れて食べるのがおいしくて好きだった。

それが最近の子どもたちは、餅にあまり関心をもたない。甘味なお菓子が多いからかもしれないが、餅を家庭で作る楽しみと喜びを知らないからではないだろうか。自分でつき、丸めて餅を頬張ると、買ったものどちがつて餅に親しみがあがり、食べる味覚もおいしくなると

思われる。

お店で売っているものは機械でついたり、ねったりしたものが多く、水が多く使われているので味は違う。日本人は形が似てもついたもの、ねったものは区別して餅、だんご、おはぎ等と区分している。

正月、しめ飾りとともに神棚、床等に鏡餅をお供えして感謝の印としているが、ついてこそ心の感謝になるのではないだろうか。

無形文化財として色々なものがあげられているが、日本の伝統風習をもつ家庭の餅つきが軽視されていることは残念である。

歴史団体やシルバーセンターなどで、軽トラックに臼、杵、蒸し器くらいを積んで注文の家庭をまわり、家庭の餅つきを復活させ、子どもたちに伝統ある日本の正月を伝えていきたいものである。

今の老人たちが正月行事を伝えなければ、正月の風習はすたれ、暦の上だけのものになりかねない。

新年は家族揃って雑煮をいただき、感謝とお祝の気分で氏神様へ参拝する習慣くらいは、末永く残したいものである。

君が代斉唱で校長が苦しみ、ニュースになったりしたが、餅を食べて祝う風習は大昔から、家族、国家の発展を祝う愛国心のある、誇りある行事である。

軍歌を大音響でがなりたてて、右翼の宣伝車だけが愛国心を叫ぶ世の中であつては困る。一般国民も愛国心を持たねばならない。

佐伯藩の昔の正月は知らないが、武士、農民、漁師、商人と異なつた風習があつたことであろう。

先日、お宮に掛かっている篇額の俳句を調べていたら、『かざり炭』という言葉があり、これも古い正月の中のことであつた。

餅は日本人の神仏への感謝と関係があるようで、お祝には餅をつき供える。

厄払いの行事でも、新築の棟上げでも餅をまく、道場でも鏡開きとして餅を食べる。餅には神の心、加護の力があるのかもしれない。餅をつかないようでは、発展はないかもしれない。

日本人の心には、餅が必要なのかも。昔から季節に感謝して、よもぎ餅、さくら餅、かしわ餅、うぐいす餅というように、餅に心をおいている。

門松に 日の丸立てて 誇る家

【追記】

『飾り炭』

正月の床の松飾りに、炭を結びつけて飾ること。

炭の黒が邪気を払い、永住を祝う。

私は生涯学習で国際交流に参加しているが、留学生や外国人はみんな民族衣装を持参しており、男も女もみんな国の料理がうまく、中国人は家庭で餃子を作っていたと、手際よく作ってくれる。韓国人は日本の餅にあたるタックという米の粉で作ったものを食べさせてくれる。日本の伝統衣装、紋付き・袴は姿を消した。

日本人は、古きものを捨て去るのが早い。性格なのだろうか。